

長岡京市立長岡第四小学校(京都府)

1) 活動の目的及び教育上の位置づけ

本校が教育研究において育てたい児童の姿は、「課題解決への見通しをもち、他者と関わり合いながら、探求的に学び続ける児童」である。総合的な学習の時間を中心に実践を進めているが、生活科や理科、家庭科にも広げ、エネルギーと私たちの暮らしとの関りを学び、エネルギー問題を自分事として考える児童の育成をめざす。

具体的な学習・活動と教育活動費の利用内容

実施月	対象学年	活動計画	希望支援内容
4月～	全学年	総合的な学習の時間の一環として「草木染」に取り組む。 栽培活動…藍、マリーゴールド、ひまわり	植木鉢、腐葉土等
6月	4年	染色家の話を聞く。 実際に染色を体験する 染料の原料収集…食べた玉ねぎの皮、抽出後のコーヒー豆、校内に生えている草など試したいもの	染色道具
6月	6年	家庭科被服分野、衣服の手入れにおいて、エコを視点に手洗いのメリットとデメリットを様々な方法から学ぶ。住まいの手入れについて学ぶ中で、電気に頼らない掃除の方法を試す。	洗濯・掃除グッズ
11月	6年	持続可能なまちづくりについて学んだ成果を発表する。長四フェスティバルに発表ブースを設け、広く地域の方にも聞いていただく。	発表用機器
2月	4年	草木染めについて学んだことを広く市民に伝える活動を行う。	市役所ロビーでの発表用紙類

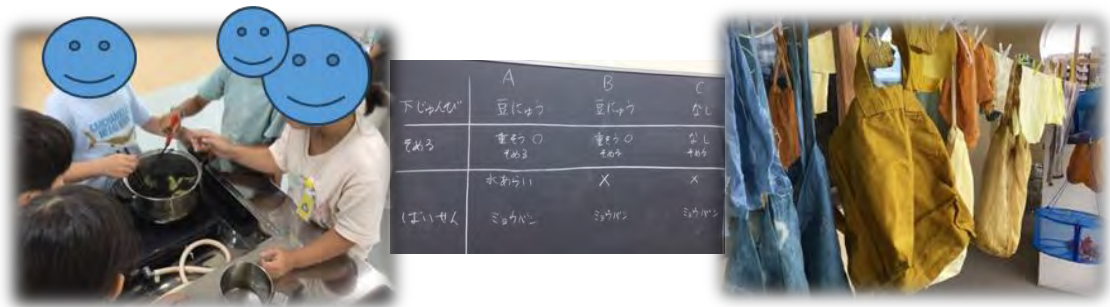
2) 学習・活動を通じての成果・効果

本校は、令和4年度から3年間、京都府小学校教育研究会総合的な学習の時間部の研究指定校として研究を深めてきた。4年生では、これまで理科的な視点から温暖化に目を向けて取り組んできた。理科や生活科での栽培活動体験は、全学年で行っており、環境やエネルギーに関する視点をもって学習をしている。

資源やエネルギーに目を向けるためには自分たちの生活を見つめることが大切と考え、社会科の京都府の伝統産業と絡め、総合的な学習の時間では「和・京都」をテーマに古くから続く伝統文化に着目して学習を進めた。京都府の事業を活用し、生け花体験や茶道体験をし、自分たちが探求できるテーマとして染色に取り組

んだ。京都には、自然由来の染め物から作られた工芸品等多数あり、染色を仕事とする方もいる。学びを進める中で、私たちの生活は石油由来の染料を使った衣類や小物がほとんどで、古くから続く伝統文化には自然由来の物であり、これは自然と共存できる、環境にやさしいということに気付く学びがあった。これは、採集活動、栽培活動を通して、身の回りの自然に目を向けたことが大きかった。

染める工程では素材によって色が違う、素材の元と色と染め上がった色が違う、また媒染液を変えることで色が変化するなど、こうしたらどうなる？という児童の探求心をくすぐる取組となった。



また、生活に根差したエネルギー教育という視点から、6年生家庭科では、エコを視点に取り組んだ。本校は完成したばかりの校舎であるにも関わらず、ほこりっぽいという問題を抱えている。そこで、掃除の仕方や掃除用具の素材に着目してどうすればきれいになるか、試しながら学ぶことができた。

学びの成果報告

4年生では自然由来である草木染の良さを多くの方に知ってもらおうと、市役所のロビーで、用事で来られた市民の方に向けて、学びを報告した。市民の方からは、知らなかった、やってみたいなど興味をひかれた旨の感想をいただいた。また、6年生では福井県から修学旅行で訪れた

6年生と交流して、自分たちの学びについてそれぞれ報告を行った。また、地域コミュニティが主催のフェスティバルでもブースを出し、学びを報告した。



4) 2026 年度以降の活動計画や方向性

次年度は、今年度の成果を踏まえて、より児童が主体となって活動できる授業改善に取り組む。また、教職員や児童に「ていねいな学校生活」をキーワードに、整理整頓や環境美化の小さな取組が社会全体のエネルギー消費や地球環境につながることを学習や学校生活を通して学べるよう工夫したい。また、今年度予定していた研究会がインフルエンザの流行で中止したので、次年度は外部講師の活用も考えたい。

令和7年度の3月にビオトープも完成した。校舎の入り口にはソーラーパネルの発電量表示や敷地内に雨水タンクもある。今年度、この環境を生かした活動が不十分であったので、引き続き身近な生活に目を向けた学習を考えていきたい。